



王子グループのネイチャーポジティブ経営

~森を育て、森を活かす~

2025年 12月 22日

王子ホールディングス株式会社

OMO 王子の森活性化推進部

王子ホールディングス

生活消費財カンパニー

家庭紙、紙おむつ

産業資材カンパニー

段ボール紙、段ボール加工、
白板紙、包装用紙、紙器、紙袋



機能材カンパニー

特殊紙、感熱紙、粘着、
フィルム



資源環境ビジネスカンパニー

木材、植林、
パルプ、エネルギー



印刷情報メディアカンパニー

新聞用紙、出版・印刷用紙
情報用紙



コーポレートマネジメントグループ シェアードサービス会社群

- 物流
- エンジニアリング
- 不動産
- 病院
- ホテル
- 保育園 etc.



物流
苫小牧～東京専用RoRo船



エンジニアリング
排水処理プラント設置・運営



病院
王子総合病院(苫小牧)



文化・芸術
王子ホール(銀座)



保育園
ネピアソダテラス(江戸川)

持続的な成長に向けた取り組み



王子グループの森林経営 歴史



出典：公益財団法人 紙の博物館

渋沢栄一により会社設立

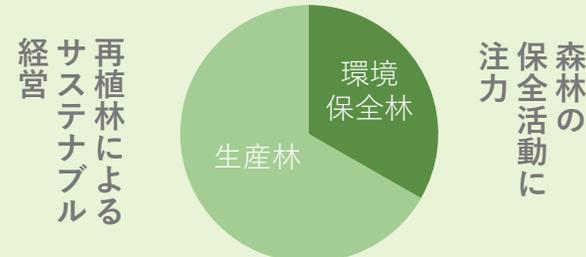


王子造林の設立



セニブラ（ブラジル）

世界の王子の森 63.6万ha



1873

1875

1890

1937

1992

2024

森林資源に根付いた
ネイチャーポジティブ経営を継続

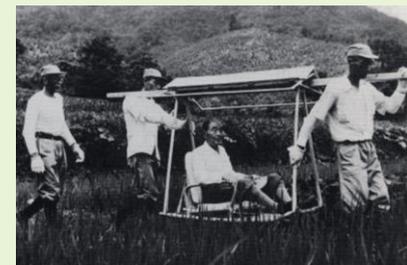
木材パルプ製造開始

東京都王子に工場建設
ポロ切れをリサイクル原料として紙を生産

「木を使うものには、木を植える義務がある」

1930年代 当社社長 藤原銀次郎

本格的な海外植林開始
早生樹植林が主流となる



北海道での山林視察の様子

総面積63.5万haのうち、約3割を「環境保全林」として管理し、森林の多面的機能の保全に注力しています



全体のうち
環境保全林の割合

約 **3** 割

※社有林のうち、実質的に環境保全林として運用されている山林のおおよその割合

王子グループの森林経営

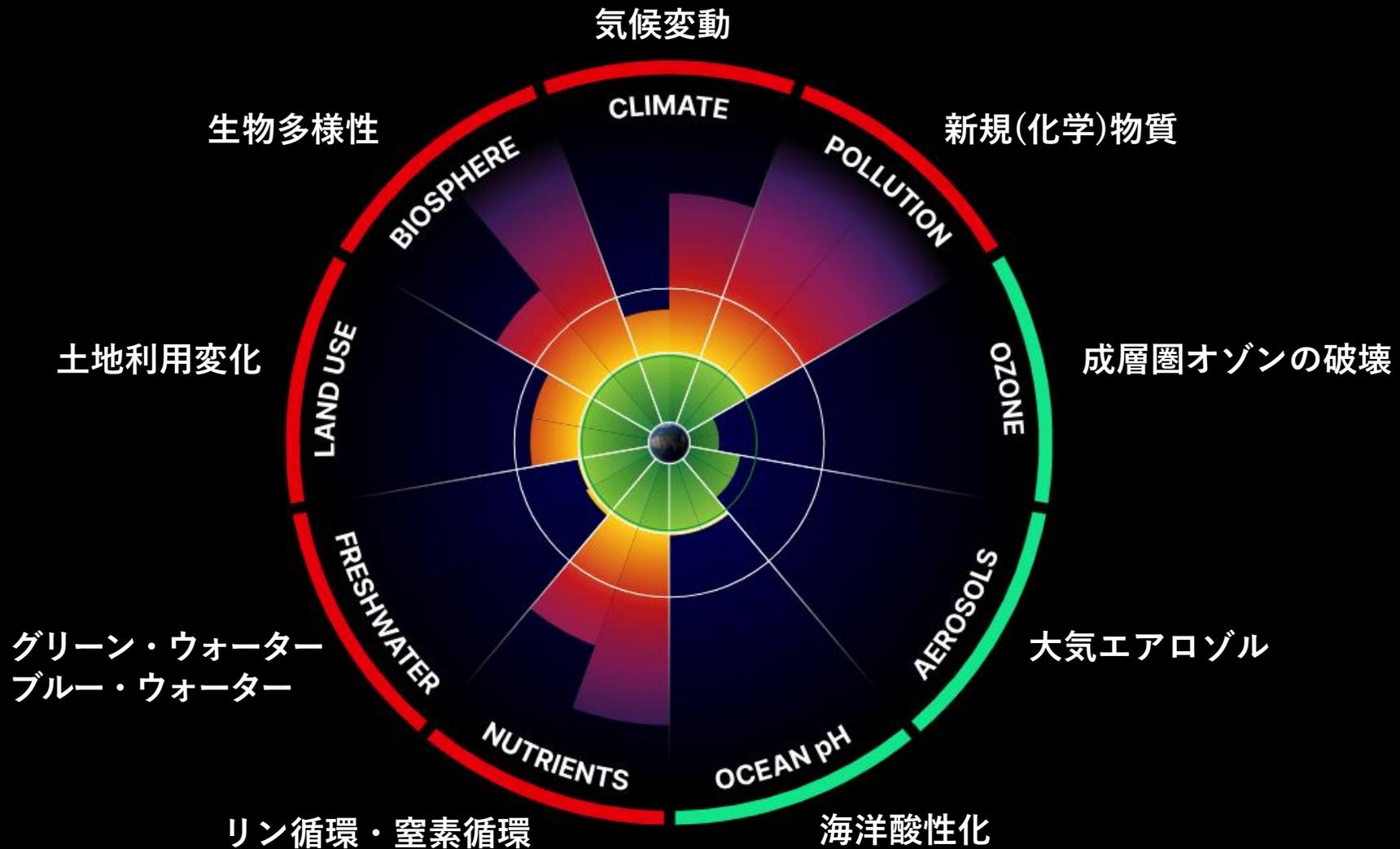
王子グループの森林経営

森林を健全に育てるために、「生産林」と「環境保全林」を一体で維持・管理しています

生産林

環境保全林

世界の潮流 プラネタリーバウンダリー内での成長が不可欠



世界の潮流 自然資本会計に関する議論の高まり

自然資本会計の潮流

持続可能性
の概念の始まり

地球温暖化対策
の国際的協調
の取り組みが進展

ネイチャー
ポジティブ
の取り組みが進展

自然資本
会計へ

自然資本会計とは

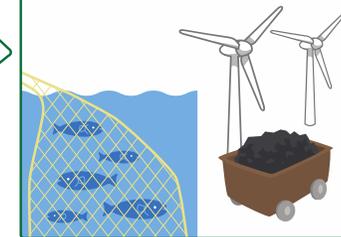
自然資本とは、森林、土壌、水、大気、生物資源等、
自然によって形成される資本（ストック）

これらの自然資本を経済価値として評価し、
会計基準におりこんでいく議論が各国で進行中

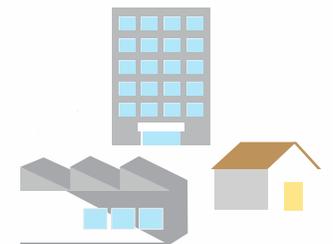
ストック
自然資本



フロー
生態系サービス
非生物的サービス



価値
企業と社会への便益



森の価値見える化プロジェクト



王子の森の経済価値を試算

2024年、国内社有林のもつ多面的機能の経済価値を林野庁の手法を用いて試算したところ、年間5,500億円もの価値があることがわかりました



新しい取り組み

森の価値見える化プロジェクト

経済価値を自然資本会計につなげるために



新しい取り組み

森の価値見える化プロジェクト

北海道猿払村での取り組み

試算結果をより精確なものにし、自然資本会計につなげるために、自然の価値の評価手法「王子モデル」の検討を開始
北海道猿払村の王子の森を舞台に5要素の価値の見える化に取り組んでいます



猿払(さるふつ)

CO₂

生物
多様性

土壌

栄養

水

5要素の価値の見える化

新しい取り組み

森の価値見える化プロジェクト



北海道猿払村での取り組み 〈海外スタートアップ企業と共同での生物多様性評価〉



環境DNAの分析による魚類の把握



定点カメラによる動物の把握



ドローンによる植生の把握



音声解析センサーによる鳥類等の把握

AIによる生物多様性の総合的な解析

森の価値見える化プロジェクト

北海道猿払村での取り組み 〈北海道大学の研究者と共同での調査と自然再生〉

イトウの遡上や産卵を促す
河川工作物の改修



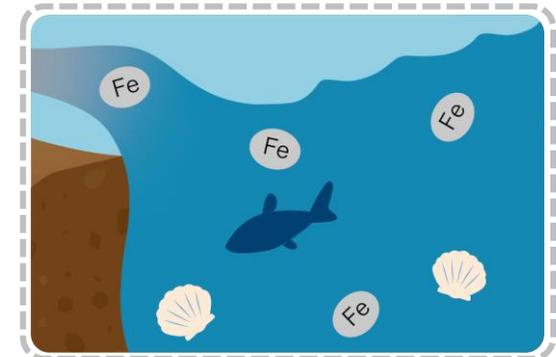
河川工作物（カルバート等）や
直線化された小河川の再蛇行化

劣化した湿地の再生および
湿地林、湿地の土壌炭素評価



湿地の水位を上げて乾燥化を防いだり
湿地の土壌中の炭素を評価

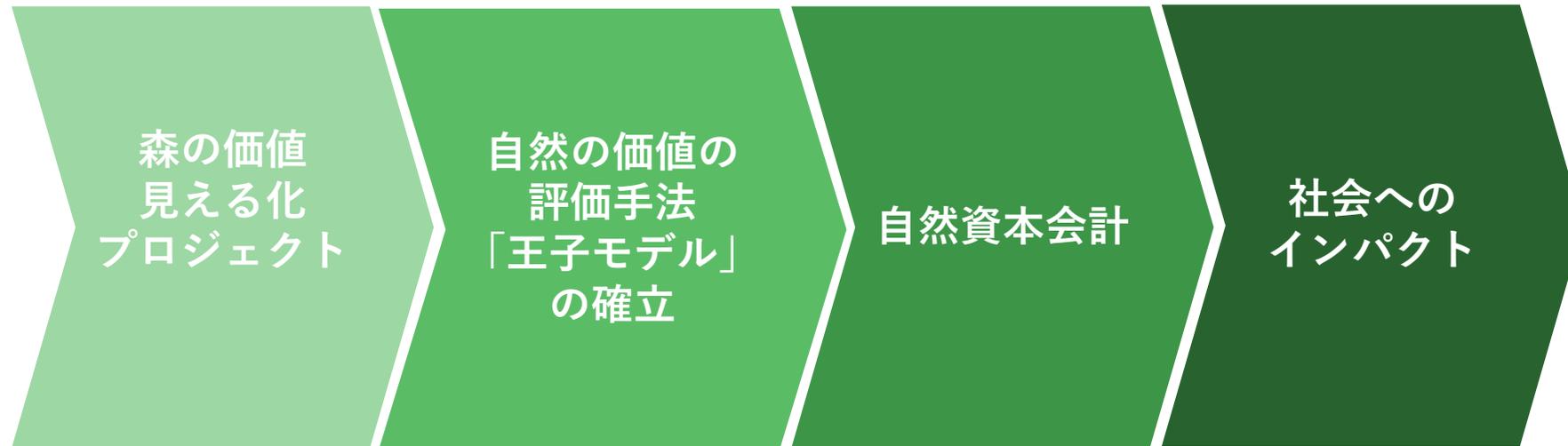
鉄分の供給機能評価



湿地～川～海への鉄分供給機能を評価
湿地が海洋生態系へ与える影響を見える化

まとめ 森の価値見える化から自然資本会計を目指す

王子グループは、森の価値の見える化プロジェクト等を通じて自然の価値の評価手法「王子モデル」を確立し、自然資本会計の制度化に積極的に関与していきます。これを通じて社会にプラスのインパクトを与え、ネイチャーポジティブとカーボンニュートラルな未来に貢献することを目指します



ネイチャー
ポジティブ
&
カーボン
ニュートラル
な未来へ

保持林業とは

伐採時に少量の立木（針葉樹人工林の中に生えている広葉樹など）を残し、高木を利用する鳥などの生物の生息場を維持することを目指す方法です。北欧や北米など海外で実施されており、日本での実施例はまだ少ないのが現状です。

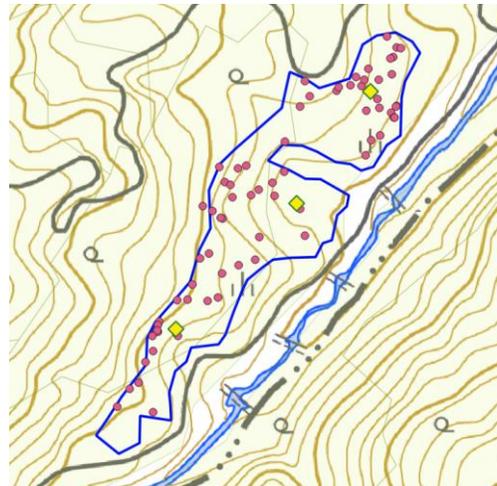
実証実験の概要

北海道のトドマツ林（3.68ha）で、エリア内の広葉樹 75本を残し、生物多様性の定量評価を行っています。具体的には、伐採前後で、①ドローン撮影による森林状態モニタリング、②音声解析による鳥類調査を行い、環境配慮型施業の効果を継続的に把握していきます。

伐採したトドマツ材は、林業と木材製品の新しい価値づくりとして有効活用を検討中です



保持林業の実施例（写真提供：山中聡）



王子実証実験サイト地図（赤丸は残した広葉樹）



王子実証実験サイト（伐採直後）

王子の森ツアー・自然学校・企業研修など

クラブツーリズム株式会社と協働で、地域の自治体や大学とも連携しながら、一般のお客様向けに王子の森ツアーを実施しています。また、2004年より小学生を対象に、地域NPOとも連携し、自然体験を通じて森づくりの大切さをお伝えする教育を実施しています。近年は、紙や段ボールのお客様と、事業所の近くにある王子の森でのワークショップや林業体験会を開催しています。



王子の森ツアーの様子（静岡県 朝霧山林、東海自然歩道隣接）



企業研修の様子（静岡県 上稲子山林）

【猿払】 王子の森での自然再生・環境教育を検討中

猿払村にある王子の森（猿払山林）で、地域NPOや行政と設立した猿払イトウ保全協議会で、絶滅危惧種のイトウの保護に取り組んでいます。今後、地域社会と連携し、猿払の貴重な自然資本である河川や湿地の自然再生や、それら取組みを伝える環境教育を検討していく予定です。



▲猿払イトウ保全協議会を設立し
イトウの保護活動を行う

◀猿払村の面積の約3割を占める
猿払山林から望むモケウニ沼とオホーツク海

森から海まで、河川や湿地を通じて
生態系がつながり、貴重な自然を構成する

【四万十】 王子の森を起点とした地域事業創出を検討中

四万十町にある王子の森（木屋ヶ内山林）では、地域NPOの生態系トラスト協会と10年以上、ヤイロチョウの保護に取り組んでいます。今後、王子の森を起点に、地域社会と連携し、林産業、食、観光、体験…などの事業を通じて、自然資本の価値化を目指します。



- ▲ 木屋ヶ内山林は、環境省の自然共生サイトにも登録されている
- ◀ 四万十川の中流域に位置し、自然と文化が調和した原風景が残る四万十町

まとめ モノ(製品)・コト(体験)を通じた共創の場へ

王子グループは、地域社会やお客様との共同の取り組みを通じ、共創の場として、森の価値を最大化することを目指します

<既存事業>

サステナブルパッケージ
木質バイオビジネス
トドマツ活用 …など

<価値の見える化>

王子の森の価値見える化PJ
自然資本会計制度化への取り組み

<愉しみ・学び～非言語的価値>

地域、お客様と連携
ツーリズム
研修領域、自然学校
…など



森の生態系 = 共創の場 ⇒ 新たな価値創造へ

ご紹介 国立公園内にある王子の森



全国各地の国立公園・王子の森における取組みの可能性



06 日高山脈襟裳十勝国立公園
(アポイ岳での高山植物保護)

11 日光国立公園
(スーパー林道、野生生物等の保全)

17 富士箱根伊豆国立公園
(田貫湖に続く東海自然歩道に隣接)

18 中部山岳国立公園
(新穂高ロープウェイ下)

19 白山国立公園
(登山道整備)

22 吉野熊野国立公園
(オオヤマレンゲ保護)



Dedicated to **Sustainability**